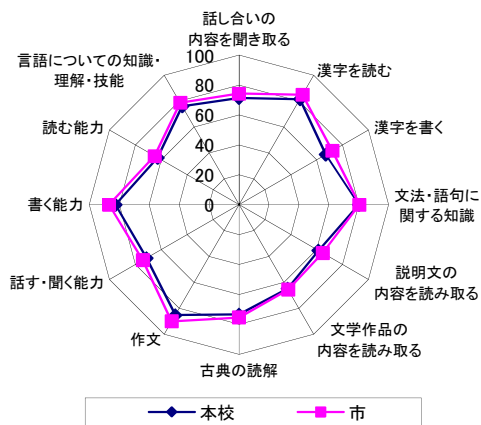


宇都宮市立宝木中学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	71.4	74.3
	漢字を読む	81.4	84.9
	漢字を書く	67.0	72.1
	文法・語句に関する知識	80.2	80.5
	説明文の内容を読み取る	61.3	64.6
	文学作品の内容を読み取る	64.9	65.6
	古典の読解	73.4	75.3
	作文	85.2	90.0
観点別	話す・聞く能力	71.4	74.3
	書く能力	82.6	86.8
	読む能力	62.9	65.1
	言語についての知識・理解・技能	75.9	78.6



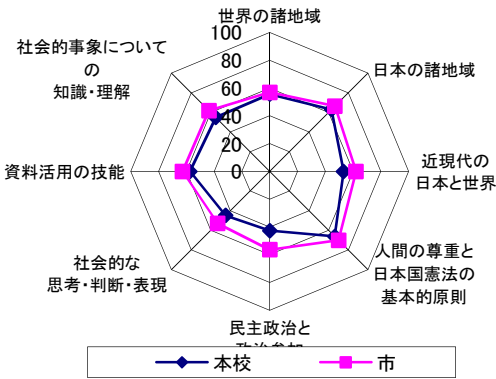
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	全体的にみると、市の正答率と比べ、本校の正答率は低めである。項目ごとに分析すると、「話の内容を正確に聞き取ることができる」は正答率が100%、「発表の内容を捉え、意図を推測し、まとめることができる」も市の正答率を上回っている。しかし、「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫」の理解が低めである。	話の内容を理解し、その意図を捉えることができているのは、評価できる。今後は、「自分の伝えたいことを、相手に理解してもらうための工夫」に特化した授業を設ける。また、その技術や構成の方法についても学習する時間を設ける。
漢字	市の正答率と比較すると、漢字の読み書きが低いことがわかる。特に漢字の「書き」では、すべてにおいて、市の正答率を下回っている。	漢字の「読み」は、市の正答率と同じものもあるので、読めないわけではないと考えられる。「書き」は、これまでの積み重ねもあり、すぐに改善できるとはいえないが、単元ごとの漢字をテストするような機会を増やすことで改善を図る。
文法・語句に関する知識	市の正答率と比較すると、本校のほうがやや上回っている。特に「同音異義語」「四字熟語」などは、知識や理解があると考えられる。一方で、「助動詞」の理解が、市の正答率よりも下回っている。	語彙力を高めるために、語彙プリントを作成し、年間を通して授業に取り入れるように努力している。今後もそのスタイルを継続していきたい。「助動詞」については、授業で扱う時は理解が高いので、継続して復習できる環境を整えていく。
説明文の内容を読み取る	市の正答率と比べて、本校の正答率は低い。「文章の展開・構成をとらえる」ことについては、市と比べて同じくらいであるが、「展開をとらえた上で、内容を読み取る」力が低めであることがわかる。	説明文の構成をとらえる授業を力を入れてきたので、構成や展開を捉えることについてポイントがアップしたことは評価できる。今後は、展開だけでなく、段落ごとの要旨(内容)をまとめる授業にも力を入れていくことで改善を図る。
文学作品の内容を読み取る	市の正答率と比べ、本校はやや低めである。「登場人物の心情をとらえること」に関しては、市の正答率と比べ、やや高くなっている。「表現の工夫に着目して登場人物の心情をとらえる」ことは、やや低めである。	昨年から、登場人物の心情の推移を中心に、細かく読み取る授業を実施するようになってきた。心情を捉えることに関しては、一定の効果があつたと思われる。今後は、「伏線」を意識したり、情景に着目したりする授業を設けることで改善を図る。
古典の読解	市の正答率と比べ、本校の正答率は低い。古典に対する苦手意識があり、「仮名遣い」を直すことはある程度できるものの、動作の主である「主語」を捉えたり、内容を読み取ることができない傾向がある。	現代仮名遣いは、継続して何題か実施するようにし、規則性を確実に定着させたい。また、「主語」が動作の主であることを、古典を扱う授業の時は必ず確認するようにしたい。
作文	市の正答率と比べて、本校の正答率は低い。自分の考えを明確にして書くことはできるのだが、理由を述べたり、自分の考えに沿って文章をまとめることは苦手な傾向がある。	自分の意見や考えを「書く」という機会を増やしていくことで改善を図りたい。自分の意見を書くときに、3段落構成が効果的であること、どのような順番で書くのが説得力があるのかを確認しながら、再度授業を進めていくことで改善を図る。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の諸地域	55.6	56.9
	日本の諸地域	63.0	66.4
	近現代の日本と世界	53.1	62.1
	人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	66.2	70.1
	民主政治と政治参加	42.7	56.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	45.0	53.0
	資料活用・技能	57.5	62.7
	社会的事象についての知識・理解	54.9	61.9



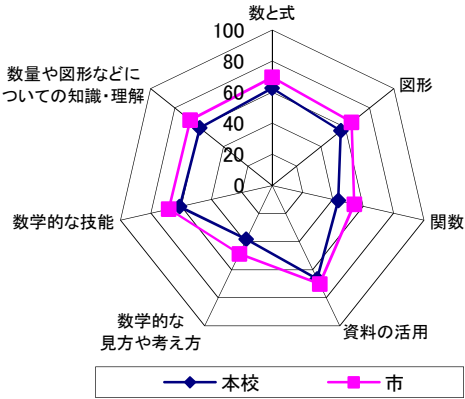
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の諸地域	市の正答率56.9%に対して、55.6%と1.3%下回っている。ヨーロッパ州の農業地域、EU加盟国、北アメリカ州の農業の特色、アメリカ・カナダ・メキシコと日本との貿易、アメリカの工業の移り変わりに関して、資料を読み取る問題については、市の正答率を上回っている。	まずは、社会的事象に関する意欲が高まるようわかる授業の展開が欠かせない。授業においては、基礎的基本的な知識の定着を図るとともに、資料等を活用しながら、考えさせたり、話し合わせたり、発表させたりしながら、思考力・判断力・表現力を高めていく必要がある。
	日本の諸地域	市の正答率66.4%に対して、63.0%と3.4%下回っている。特に、北陸地方の自然環境についての理解をもとに雨温図を読み取る問題については、5.7%下回っている。	
歴史	近現代の日本と世界	市の正答率62.1%に対して、53.1%と9.0%下回っている。特に、世界恐慌が各国に及ぼした影響についての理解に関する問題については、14.6%下回っている。	まずは、社会的事象に関する意欲が高まるようわかる授業の展開が欠かせない。授業においては、基礎的基本的な知識の定着を図るとともに、資料等を活用しながら、考えさせたり、話し合わせたり、発表させたりしながら、思考力・判断力・表現力を高めていく必要がある。
公民	人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	市の平均正答率70.1%に対して、66.2%と3.9%下回っている。憲法改正の手続き、新しい権利についての理解に関する問題については、市の正答率を上回っている。	まずは、社会的事象に関する意欲が高まるようわかる授業の展開が欠かせない。授業においては、基礎的基本的な知識の定着を図るとともに、資料等を活用しながら、考えさせたり、話し合わせたり、発表させたりしながら、思考力・判断力・表現力を高めていく必要がある。
	民主政治と政治参加	市の平均正答率56.4%に対して、42.7%と13.7%下回っている。特に、国会の議決における衆議院の優越の理解に関する問題については、25.1%下回っている。	

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	62.5	69.6
	図形	56.4	65.2
	関数	43.5	54.1
	資料の活用	66.7	70.3
観点別	数学的な見方や考え方	38.4	48.7
	数学的な技能	61.0	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	59.4	67.5



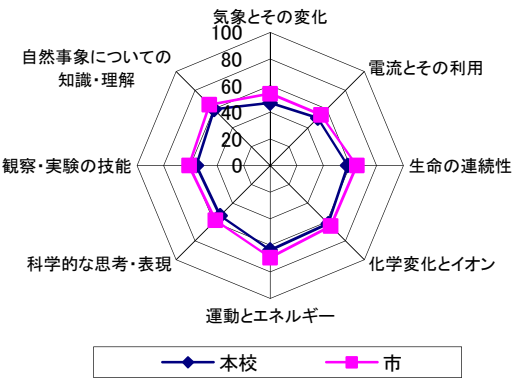
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	昨年度は約17ポイントの差があったが、今年度は7ポイント差と、差が10ポイントに縮んだ。毎回宿題を出し、次の授業で欠かさずチェックしたことによって、こつこつと計算をする習慣が少しずつ身についてきたと思われる。	毎時間の問題集の宿題や単元ごとの小テストなど、長期にわたり、復習も含め、こつこつと計算問題を解かせることが必要である。
図形	証明問題など、論理的思考を問われる内容の問題は、最初からあきらめて手をつけない傾向にある。しかし、角度など、直感力が問われる問題は解こうとする意欲が高い。	証明問題は、穴埋め問題を多く解かせることにより、解き方のパターンを覚えさせることが有効である。また、図形においては知識理解力を向上させるために、小テストを多く取り入れることが必要である。
関数	苦手意識を持つ生徒が多く、比例、反比例などでのつまずきが、1次関数や2乗に比例する関数に影響を及ぼしている。	関数の基礎となる比例、反比例について、復習の時間を授業の中に取り入れることによって基礎・基本を定着させる。
資料の活用	昨年度の市平均との差は約15ポイントであったが、今年度はわずか3ポイントと大幅に達成率を増やした。身近な題材については、比較的積極的に取り組む意欲がある。	例題として、身近に存在する題材の問題を多く解かせることにより、基礎力を向上させる。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	気象とその変化	47.1	54.0
	電流とその利用	50.5	53.8
	生命の連続性	58.1	65.0
	化学変化とイオン	61.8	64.2
	運動とエネルギー	63.5	69.2
観点別	科学的な思考・表現	53.3	58.2
	観察・実験の技能	55.4	61.1
	自然事象についての知識・理解	59.6	64.6



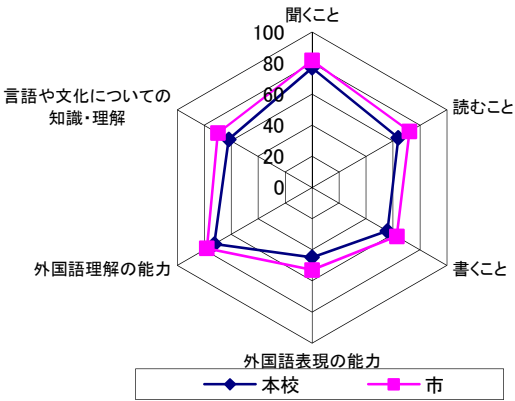
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
気象とその変化	空気の膨張、収縮、凝結、露点などの基礎となる語句が十分理解できていないようである。湿度から露点を求める応用問題の定着度は低い。等圧線、高気圧と低気圧の空気の流れ、前線付近の天気など基本的な内容が定着が不十分であった。	基本となる語句を正しく理解させて、反復学習で定着をさせていきたい。また、前学年の学習内容を忘れてしまうので、定期的に復習の時間を確保するとともに、思考力、応用力を身に付けさせるための時間も確保していきたい。
電流とその利用	オームの法則による計算は、理解できているが、発熱量や電力量の計算の正答率は低い。磁石の磁界や導線の磁界の定着が不十分であった。直列回路と並列回路の電流や電圧の決まりを活用した応用問題の正答率は特に低かった。	実験を通して、回路や磁界についての理解を深めていきたい。さらに、基本となる計算問題を反復練習して、思考力、応用力を身につけさせていきたい。
生命の連続性	細胞分裂の順序、染色体、染色液、受精、遺伝子などの理解は十分とはいえないが、あと一歩の状況である。生物の成長のしくみを論述する問題では特に正答率が低かった。	基本となる語句が多く出てくる单元なので、正しく理解させて、反復学習で定着をさせていきたい。ことばで説明したり、文章にしたりする時間を確保、思考力、表現力を身に付けさせていきたい。
化学変化とイオン	電解質、非電解質、原子のつくりについては、定着度は良好であった。イオン記号を用いて電離を表す問題では、定着度が低かった。	実験を通して理解した電解質や非電解質については定着しているので、できる限り生徒実験や演示実験をしながら理解を深めていきたい。イオン記号については、反復して定着を図ってきたい。
運動とエネルギー	台車の運動と記録タイマーについての定着は、十分とはいえないが、あと一歩の状況である。記録タイマーのテープから速さを求める計算問題では正答率が特に低かった。力の分解や合力の定着度は、極端に低くないが、さらに努力を要する。	今後も、運動やエネルギーについては、実験や日常生活と関連させて理解を深めていきたい。速さを求める計算では、反復して問題練習に取り組める時間を確保して定着を図ってきたい。力の分解や合成では、実験や作図の時間を確保し、日常生活と関連させて定着を図ってきたい。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	聞くこと	76.9	81.7
	読むこと	63.9	72.2
	書くこと	55.8	62.8
観点別	外国語表現の能力	44.9	53.0
	外国語理解の能力	72.6	78.1
	言語や文化についての知識・理解	61.9	70.0



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	市の平均との差は4.8%となっている。 聞きとりの問題については、概要や要点を理解することについては得意とする生徒が多い傾向にある。 しかし、細かな点についての問いや、話す速度、内容の長さによっては正答率が低くなるようである。	引き続き授業の中で英語を使う場面を持ち、徐々に量を増やしていくようにする。Q&AやTFテストなどを用いて英語の内容を聞き取り、正しい答えを見つけていく練習を多用する。 また、リスニングの際の聞き方の工夫やポイント、メモの取り方なども演習していくとともに、様々な形式・場面の理解ができるよう授業やテストの中で設定していく。 単語の知識が少ないので、音声面と共に語彙力の向上
読むこと	市の平均値とは8.3%の差がある。 文章の内容の大まかな流れや大意を捉えることは比較的できているが、分の構成や単語、指示語の内容に関しては理解が不十分な傾向にある。	単語は1度だけでなく繰り返し復習し、意味は使い方を確認すること、教科書だけではなく多くの英文に触れる機会を作っていくこと、などが有効な手段となる。 また、知らない単語出ても、前後の文脈から推測するなどの練習も必要になる。授業の中などで練習する機会を設けるようにする。
書くこと	市の平均とは7%の差である。 書く内容が決まっていますが、単語や文についての正確性に欠けている傾向が強く、練習量の少なさが一因であると考えられる。また、表現の問題については、英語の力だけでなく、自分の意見を持つことも不得手としている生徒も見られる。	基本的文法事項を復習し定着していくドリル活動を行う。また、基本の表現を身につけた後、単語・文章を書く練習をするとともに、使う単語などを入れ替えて自分のオリジナル英文を作る活動などを行っていく。 教科書の内容理解に加え、登場人物の心情や状況を読み取ることを行い、そこから自分の考えや意見を述べる活動を授業の中に取り入れていく。